

日系ディアスポラにおける盆踊りレパートリーの形成 —ハワイと南カリフォルニアの比較— 早稲田みな子

ハワイと南カリフォルニアでは、ともに盆踊りが夏の風物詩となっているが、そのレパートリー形成には大きな違いがある。その背景には、それぞれの土地の日系人が置かれた異なる地理的条件、民族的、社会的、文化的環境と、異なる歴史的体験がある。それらの多様な要素に抵抗したり適応したりしながら、あるいは無意識的に影響を受けながら、彼らは自己の民族的ルーツ（ホーム）とホスト社会の両方に折り合いをつけ、ディアスポラ文化としての盆踊りを展開してきた。そこには、ホーム文化の維持と異種混濁という二つの側面が見出せる。日系人が密集して暮らし緊密な共同体を築いてきたハワイでは、一世の故郷の盆踊り歌とその替歌が伝承されている。マスメディアを介して伝播した 1930 年代の「音頭ブーム」は、日本の歌謡曲や民謡の商業的録音を用いた「録音再生型」盆踊りを日系社会に定着させたが、白人社会のマイノリティであるカリフォルニアの日系人にとって、日本の商業的録音は保存・伝承・蓄積すべき「擬似伝統文化」となり、日本との地理的・文化的距離の近いハワイでは、それが色々な分野の日本舞踊の師匠たちによって積極的に開拓され、常に充実した「録音再生型」レパートリーが維持されている。このような「ホーム文化の維持」に対し、ハワイでは若い世代の嗜好を反映したアメリカのポピュラーソングの盆踊り化、カリフォルニアではマイノリティ意識を基盤とする「日系アメリカ・アイデンティティ」の表現としての創作盆踊り歌において異種混濁が起きている。錯綜する文化要素の取捨選択、混合の仕方等の決定は、ディアスポラによって、またディアスポラ内部の個人によって異なる。そして、それは時代によっても変化していく。このようなディアスポラ文化の多様性・重層性・可変性を理解するには、人々の実際の経験と意識を研究の中心にすえ、複合的な視点を持つことが重要であろう。